

# 第58回技能五輪全国大会(愛知大会)を振り返って

配管職種競技委員 渡邊 弘幸  
(東京都管工事工業協同組合)



競技説明する渡邊委員



公開水圧審査の様子

昨年に引き続き愛知県国際展示場での開催となった第58回技能五輪大会について、コロナウイルスの影響で開催が危ぶまれましたが、無観客と競技者同士のスペースを開ける事や、選手や競技関係者の健康管理を厳重にする等の対策をして無事開催することができました。また、昨年指摘された会場の暗さは補助照明の設置を行いました。

例年60人近い選手が出場しますがコロナウイルスによるソーシャルディスタンスの関係で今年は男子35名女子1名の合計36名分しか競技スペースが確保できず、参加できない競技者が出てしまったことは誠に残念でしたが、多くの関係各位のご尽力により無事開催できた事は大変喜ばしいことでした。

本年の課題は例年同様、排水配管にお

いては選手自らの設計で完成させますが、排水管や通気管は勾配や継手の種類、分岐位置などを配布した材料を余すこと無く使って施工するために、選手それぞれの配管職種への常識に如何に精通しているかが問われた課題でした。

また、今年は競技の公平性を高めるため材料確認時に仕分けながら仮組作業や継手の呑込寸法の確認などができないように工具展開と材料確認の時間を分けました。上位の選手たちにはさほど影響はなかったと思いますが、普段から材料確認に慣れていない選手は時間がかかっていたことが印象的でした。持ち込み工具等自由も持込不可の物について情報を事前に公表したため、工具の確認で使用を制限する工具はありませんでした。

競技は無事に進み36名中時間内完成



未来を担う若年技能者

が31名、未完成5名でした。上位選手は僅かな点数を競う激戦でしたが、金賞1名、銀賞3名、銅賞3名、敢闘賞6名となりました。

上位選手は非常に精度が高く、美しいと感じる素晴らしい作品が出来ていました。

相当な練習と指導者の皆様の熱心な指導の賜と思います。また、紅一点の競技者が作品を完成させ敢闘賞に輝いたことは誠に喜ばしい。終了後に指導者や仲間と作品の前で記念撮影している姿に、大きな達成感とやりがい、誇りを感じられた事と思います。他にも出場した選手はそれぞれ今後の設備業界人として大切な物を得られたことと思います。この競技が若手の発展の場であることを改めて強く感じました。

23才以下の若者達ではありますが、それぞれ練習の成果を発揮して課題に挑戦している姿には今後の業界をひっぱり手として頼もしさを感じました。

私はこの競技には56回の沖縄大会より委員として参加しています。現在の課題は配管職種における基本技術を求める良い課題であると思いますが、選手の課題作成手順が実際の現場の手順と乖離している事が気になっています。例えば、パーツを全部組み立ててそっくりパネルに取り付けする手順の選手が多いです。この手順が広まった理由は不明ですが、壁や床がある実際の現場ではできません。今後は実際の現場での施工手順が反映される様に課題を工夫をしていきたいと感じています。これは競技を実施する側としても何が配管職種で大事な事なのか等を含め発信できればと考えています。

最後に本大会主催の厚生労働省、中央職業能力開発協会、競技の運営に尽力いただきました全管連、日空衛、開催地の愛知県管工事業協同組合連合会、愛知県空調衛生工事業協会、そして何より選手を出場させて頂きました企業、学校、ご家族の皆様に御礼を申し上げます。